

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	18149
課題名	胃癌手術患者の術前診断と手術および予後に関する検討
研究期間	倫理委員会承認後～ 2023年 3月 31日
研究の対象	2002年1月～2023年3月31日までに当院で胃癌手術を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：診断名・年齢・性別・術前情報（術前診断・併存疾患・術前画像等）、手術情報（術式・手術時間・出血量・腹腔鏡の使用等）、術後合併症、病理診断、血液検査結果、術後補助化学療法の有無、再発・予後・転帰等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
研究の意義、目的	<p>当院では多くの術前診断方法を用い患者さんの診断能力向上に努めています。しかし胃癌の術前診断の精度はまだ十分とは言えず、術前の画像診断の正診率は80%程度です。その一方、近年胃癌手術は進化し噴門側胃切除や幽門保存胃切除と呼ばれる縮小手術や術前化学療法を行った後に手術を行うなど多様化しています。患者さん一人一人に適切な治療法を選択してもらう上で適切な術前診断は欠かせません。当院では術前診断の正確性を判断し、患者さん一人ひとりに行われた治療法とその後の経過がどうなっていくのかを追跡し検討することで、未来の患者さんに適切な治療法を選択できるような判断材料にしていきたいと考えています。</p>
研究の方法	<p>本院におきまして、既に胃癌手術を受けられた患者さんの診療記録(情報:画像診断情報、診断名、治療経過、転帰等)を使用させていただきます。</p>
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川医科大学 外科学講座 消化管外科学分野</p> <p>電話 0166-68-2503 FAX 0166-68-2193</p> <p>研究責任者：旭川医科大学外科学講座 消化管外科学分野 助教 庄中 達也</p>